

大学の世界展開力強化事業 取組概要 千葉大学

【構想の名称】(選定年度24年度(申請区分(II)))

ツイン型学生派遣プログラム(ツインクル)

【プログラムの目的・養成する人材像】

拠点リーダーとして活躍しうる、グローバルな教育能力と視点を持つ教員と、教育マインドを持つグローバル研究者

【構想の概要】

実践的教育研究に取り組む院生と最先端科学研究に取り組む院生とのカップリングにより「人材開発型」の教育プログラムの構築をおこなう。バックグラウンドが異なる研究科院生・学部生のツイン型学生派遣による協働促進カリキュラムを作成することで、ASEAN拠点大学での教育・研究活動による学位取得をも可能とする実践展開型授業プログラムを開発する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ グローバルジャパンカリキュラム

ツインクル受講生は本カリキュラムの受講により英語力及び異文化コミュニケーション力を伸ばし、海外教員体験を効果的にする。取得した単位は卒業要件として加算できる。

○ 柔軟性に富んだコース設定

トライアル(2週間)・ショートコース(1ヶ月)を設定することで多くの学生が参加可能になり、活動に広がりを持たせ、ロングコース(~6ヶ月)で深みのある教育研究活動を可能にする。

○ アクティブラーニングの推進とCALLおよびイングリッシュハウスの活用

アカデミック・リンク・センターと連携し、自由な学習空間、学習のためのコンテンツ、人的サポートを組み合わせた新しい学習環境の下、アクティブ・ラーニングを主体としたプログラム運用をする。また千葉大学が開発したコンピュータを用いた英語学習システム「CALL」および新規開設したイングリッシュ・ハウスを活用して英語力を強化する。

■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

インドネシアの連携高校での授業風景



○ 英語や現地語での実験講座プログラムの開発

グローバルジャパンカリキュラムの中で最先端科学研究のアウトリーチ教材開発を行っている。また国際教育センターと協働し、日本文化・日本語教育について学習機会を提供している。シンガポール及びロンドン大学国立教育研究所、プノンペン大学等との連携のもと、英語・現地語による実験体験型科学学習プログラムの開発を進めている。

○ ツインクルプログラムにおける単位互換

平成25年度はグローバルジャパンカリキュラムを軸とした単位認定システムの構築を派遣活動が先行するインドネシアを中心に協定校と推進に向け協議する。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

平成24年度はトライアルコースでの派遣により39名の学生をインドネシアおよびカンボジアに派遣した。今年度は派遣先をタイ、ベトナム、シンガポールに拡大し、80名の派遣を行う。

○ 外国人留学生の受入れ

平成25年は留学生受け入れ奨学金制度を活用し、グローバルジャパンカリキュラムの講座の中で最大100名の留学生受け入れを計画している。

インドネシアでの交流・研修活動



	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	39	80	80	80	80
学生の受入	0	16	16	16	16

注)H24は実績、H25以降は計画

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 千葉大学IECオフィス専任スタッフと特任助教による支援体制

千葉大学IECオフィスの専任スタッフおよび各拠点大学への専任コーディネーター配置により、現地でのサポート体制を確立した。さらに特任助教を4名に増員し、トライアル・ショートコース派遣期間は特任助教がASEANにおいて教育および生活指導を実施し、安全で効果的な活動を支援する。

○ International Support Desk (ISD) との連携によるツインクル学生交流の全学推進

ISDと協働し、留学生受け入れおよび派遣に関する学内体制を構築することにより、留学生の受け入れ促進を図る。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

<http://www.twinkle.jp/>

○ シラバスの公開、ホームページによる情報提供、開発した教育プログラムの発信

学生の履修に関しては学務に関する専門秘書(アマヌエンシス)を配置し、支援体制を強化している。修了要件及びシラバスは印刷物及びホームページで公開しており、透明性を確保している。開発した教育プログラムは報告会等により広く公開する。

○ 外部評価委員会による評価

経済同友会教育交流部など経済界を含む外部評価委員による評価・提案を受け、プログラムの先鋭化を図る。

インドネシアの大学および中・高校教員を交えた第1回ツインクル活動成果報告会

